

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	文学研究科	カテゴリー	人文科学総合科目 群	横断 区分	文系横断型				
授業科目名 (英訳)		戦争と植民地をめぐる歴史 認識問題 (Toward a common historical understanding among Asian countries: Memories of the war and colonialism)		講義担当者 所属・職 名・氏名	文学研究科・教授・小山哲 文学研究科・准教授・高嶋航 文学研究科・准教授・谷川穰 文学研究科・教授・永原陽子 文学研究科・教授・中村唯史 文学研究科・教授・平田昌司 文学研究科・教授・松田素二 文学研究科・教授・吉井秀夫 人間・環境学研究科・教授・ 江田憲治 人間・環境学研究科・教授・ 岡真理 人文科学研究所・教授・石川 禎浩 人文科学研究所・准教授・藤 原辰史	開講 場所	吉田キャンパス 文学部校舎にて 開講予定				
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2単位	開講年 度・開講 期	後期	曜時限	木2限 (10:30-12:00)	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】 東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、焦点となっている問題にかかわる過去の歴史についてより正確な事実を学ぶことを主としつつも、これら三国の間での歴史認識の差異を多面的に考察するとともに、ヨーロッパ・ロシア・アフリカ・中東の事例とのグローバルな比較の視点を導入することにより、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。											
【研究科横断型教育の概要・目的】 文学研究科、教育学研究科、人間・環境学研究科、人文科学研究所の教員を中心に、現在日本、中国、韓国、北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている、過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」を中心に講義します。また、東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についても取扱います。広い視野をもって過去と現在の世界の問題を考える力を身につけるため授業です。専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので、研究科や専修の枠にとらわれずに受講してください。											
【到達目標】 国際的争点となっている「歴史認識」問題について、史料などにもとづいた歴史的な立場から正確に事実を把握し、また、文化研究の方法をふまえて多様な視角から歴史上の問題を検討する能力を持てるようになる。											
【授業計画と内容】											

<p>講義担当者は以下のとおりです。日程については後日掲示します。</p> <p>小山 哲(文学研究科):ポーランド・ドイツ・ウクライナ——国境を越えて歴史認識を議論するには</p> <p>高嶋 航(文学研究科):「慰安婦」と中国</p> <p>永原陽子(文学研究科):『ダーバン会議』と植民地をめぐる歴史認識</p> <p>平田昌司(文学研究科):近現代中国における日本観</p> <p>吉井秀夫(文学研究科):朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐって</p> <p>中村唯史(文学研究科):戦死者の記憶をめぐる詩学:詩人オリガ・ベルゴリツとラスル・ガムザトフの場合</p> <p>松田素二(文学研究科):朝鮮人被爆者と戦後補償問題</p> <p>谷川 穰(文学研究科):靖国神社について</p> <p>横田冬彦(文学研究科):日本遊郭史からみえる「慰安婦問題」</p> <p>江田憲治(人間・環境学研究科):<民族協和の理想国>か?<帝国日本の植民地>か?——「満洲国」をめぐる歴史認識</p> <p>岡 真理(人間・環境学研究科):歴史的鏡像としてのパレスチナ/イスラエル(その1・その2)</p> <p>石川禎浩(人文科学研究所):日中国交回復時(1972年)の歴史認識</p> <p>藤原辰史(人文科学研究所):農学者たちの加害意識の欠落について——日本とドイツを中心に</p>
〔履修要件〕
特になし。
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕
毎回の平常点(出席点)50%、レポート50%の割合で評価する。
〔教科書〕
使用しない。
〔参考書等〕
授業中に指示する。
〔授業外学修(予習・復習)等〕
授業中に指示する。
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕
いわゆる歴史認識問題の背景に存在する考え方・事実について、関心を持つ大学院生の受講を期待する。